

# ちばの地域福祉

## 中核地域生活支援センター大会2015を終えて

千葉県中核地域生活支援センター夷隅ひなた所長  
中核地域生活支援センター大会2015実行委員長  
齊藤 ひとみ

7月24日（金）千葉市生涯学習センターにおいて、中核地域生活支援センター大会2015が開催されました。

不安定な天候の中、当日は天気をも味方につけました。

平成27年4月、生活困窮者自立支援法が施行され、全国各地でその地域の特性を生かしてセーフティネットの仕組みづくりがスタートした今、今年の基調講演のテーマは「“助けて”といえる社会をめざして」、北九州から奥田知志さんを講師にお招きしました。奥田さんは一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表、NPO法人抱樸（旧：NPO法人北九州ホームレス支援機構）理事長、そして牧師でもあります。講演が始まり会場は静まり返り奥田さんの一言一言に聞き入ってしまいました。聞いている私たちの疲れた心に水を注いでくれているような感覚にさえなりました。まるで言葉のシャワーを浴びているような。

午後のシンポジウムは、それぞれの分野で活躍している個性あふれるパネリストをお呼びしました。不登校を経験した子供たちの教育に取り組んでこられた中山学園の三雲さん、農業と福祉の融合をめざし積極的かつ柔軟な事業展開に取り組む飯田さん、中核地域生活支援センターで培ったノウハウを生かし自立相談支援事業に取り組む大戸さん、午前に引き続きコメンテーターとして奥田さんをお迎え、野沢さんのコーディネートによりそれぞれの魅力を最大限に生かし、貧困や孤立を生まない地域社会づくりの可能性を探ることができました。何はともかく皆さんのパワーのすごさに目を見張るものがあり、元気をもらうことができました。

大会を終え、昨年同様、他職種多機関からの参加は言うまでもありませんが市町村、行政関係の参加が少なかったのが残念でありました。日程についても平日にするなど工夫したつもりではありましたが検討する余地があります。そして思ったことは、福祉の制度も福祉の現場も目まぐるしく変わる中、変わらない私たちでありたいと…福祉に対する熱い思いを持ち続けたいと思いました。

最後に、今大会が大盛況のうちに無事開催できたことを、ご登壇いただいた方々、後援いただいた千葉県、大会を支えてくださった中核センタースタッフ、そして当日ご参加いただいたすべての皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

# ちから ちばの福祉力・社会資源

フードバンクちばの活動～食を通じたセーフティネットづくりを

## フーズバンクちば

代表 菊池 謙

フードバンクは 1960 年代にアメリカで始まった活動で、日本では 10 年ほど前に東京で始まり、千葉県では私たちフードバンクちばが 2012 年 5 月から活動を開始しています。

フードバンクちばでは、①企業や家庭で余っている食品をご寄付いただき、②集まった食品を仕分けし、必要な個人・施設等に無償で提供する、③フードバンク活動を通じて生活困窮者の就労・活動の場を創出する、ことを主な活動としています。

「フードドライブ」は年 3 回、県内各地の社会福祉協議会等のご協力で、70 数カ所の拠点を設け、家庭で余っている食品を集める取り組みで、1 回あたり約 3～5 トンの食品が集まります。一方、県内・外の企業等から賞味期限が近づいたり、外装の汚れなどで、販売できない食品の寄贈も受けています。

食品の提供先は、福祉施設・団体と困窮する個人（世帯）がありますが、フードバンクちばでは、特に個人向けの支援に力を入れています。現在、県内各地の市町役所、社会福祉協議会、中核地域生活支援センター等と連携しており、生活保護や生活困窮、高齢・障害などの窓口を訪れた困窮者に対し、その場で申込書を記入していただき、翌日には 10kg 前後の食品を宅配便でお届けしています。月から金曜日の毎日受付をしており、毎月 150～180 件の支援を行っています。

今年の 4 月より生活困窮者自立支援法が施行され、すべての市で生活困窮者の相談支援窓口が開設されて利用はますます増える傾向にあり、寄付で賄っているフードバンクの運営費も非常に厳しい状況です。

去る 6 月 24 日には中核地域生活支援センターをはじめとする県内各地の相談支援事業所や生協、研究者の方など 12 人にお集まりいただき、フードバンクちばの今後の運営やあり方について考える「運営検討会議」を開催しました。今後フードバンクの利用方法や費用負担について、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

# ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

## 市原市「サークルつくし」

### ～安心して自分をみつめられる場所～

サークルつくしは1993年に「学校へ行けない、でも行きたい」そんな悩みを持つ小・中学生が通える場所として、市原市青少年会館に作られました。今回、取材に協力してくださった今井先生を含めた4人の中学校教諭が立ち上げのメンバーです。

50年ほど前、今井先生はアメリカから日本に入ってきて間もなかったカウンセリング的指導を学び、それを学校に取り入れようと思いました。保健室登校など認められていなかった時代に、学校に居場所のない生徒が安心して居られる場所が欲しいと思いました。そして、退職を機に安心して居られる場所を青少年会館に作り、今に至っています。

サークルつくしですることは何も決まっていません。ここでは、自分がやりたいことは何かを考え、自分で決めることになっています。

プラスの感情もマイナスの感情も全て大切な自分の心だから、本当の自分の心に気づき、それを外に出してみる。サークルつくしはそんなことを練習する場所でもあります。

20年以上続く活動の中で、メンバーが自発的に行動しフリーマーケットに参加したり、修学旅行を実行したりという時期もありました。サークルつくしのホームページもメンバーが発案し自分たちの力だけで完成させたということです。

サークルつくしでは「子どもは自分で育っていく力を持っている。」と考えています。その力を信じて、長い間、静かに優しく子どもたちの変化を見守り寄り添ってきました。

以前は小・中学生のための居場所だったサークルつくしですが、今は学校を卒業したけれど通える場所がほしいという方も利用しています。

サークルつくしで過ごし社会に巣立ったメンバーの中には、今でもサークルつくしを「ほっとできる場所」として大切にしているという方もいます。

自分を見つめることは誰にとっても大切なことだと思います。サークルつくしは安心できる場所で信頼できる人たちと話し合いをしながら「自分を見つめる」ことができる貴重な場所なのだと取材を通して感じました。





# ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

## 福祉のしごと 就職フェア

感謝！ 感動！ 希望！ 福祉のイメージが変わる！！！！

- 【内 容】 社会福祉施設等との面談会・福祉の仕事に関する相談コーナー  
【日 時】 平成27年11月14日（土）13：00～16：00  
【会 場】 幕張メッセ国際会議場・コンベンションホール他

同日開催 10：30～11：45  
福祉のしごとセミナー  
会 場：幕張メッセ国際会議場・201会議室  
ケアワーカーの1週間

- 【参加費】 無料 【申 込】 不要 【入退場】 自由 【履歴書】 不要  
【問合せ先】 千葉県福祉人材センター TEL：043-222-1294  
HP：<http://chibakenshakyo.net>

親子で

## 第10回千葉県福祉機器展2015

～自宅での生活を支援する、知って得する福祉機器の紹介～

【テーマ】 自宅での生活を支援する福祉機器の紹介・親子で体験

- 【内 容】 (1) 福祉機器展  
① 便利な福祉機器・介護用品・設備等  
② 活用事例  
③ 介護や機器等に掛かる諸費用概要  
(2) 親子イベント  
(3) 介護予防イベント  
(4) セミナー

【日 時】 平成27年11月28日（土）～11月29日（日）[2日間]  
28日（土）10：00～17：00  
29日（日）10：00～16：00

【場 所】 千葉県福祉ふれあいプラザ  
(けやきプラザ1階・2階・7階・エントランス広場)  
千葉県我孫子市本町3-1-2 (JR常磐線我孫子駅南口徒歩1分)

【参加費】 無料 【申 込】 不要

【問合せ先】 千葉県福祉ふれあいプラザ介護実習センター

TEL：04-7165-2886 URL：<http://www.furepla.jp/>

※中核地域生活支援センター連絡協議会では、今年も活動白書2014を市川圏域（がじゅまる）の皆さんの協力で作成しました。ご覧になりたい方は事務局（夷隅ひなた）までお問合せ下さい。

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：夷隅ひなた（夷隅圏域）いすみ市大原8927-2

TEL:0470-60-9123

FAX:0470-60-9124

編 集：君津ふくしネット（君津圏域）富津市青木2-16-14

TEL:0439-27-1482

FAX:0439-88-1481

※内容についてのお問い合わせは、君津ふくしネット（担当：玉手）までお願いします。